

さっぽろ生き物さがし2016

～ 調査結果ニュースレター ～

★ さっぽろ生き物さがし2016について

札幌市では、2016年の夏から秋にかけて、札幌の自然環境の状況を把握することを目的に、森林や草地、水辺などの環境の指標となる生き物を市民みんなで調べる「一斉調査」を行いました。参加者の皆さんには、7月23日から10月30日までの100日間、調査対象とした7つのグループの動植物について報告してもらいました。ここでは、調査の概要や得られた結果について、参加者の皆さんから寄せられた写真とともに紹介します。

★ 参加者と調査エリア・時期について

今回の調査に参加して結果を送っていただいたのは、**84チーム**、計**601名**でした。このうち小学生を含むのは65チーム(77%)と、夏休みの子どもたちが多く参加しました。参加者数は、マルハナバチのみを対象とした昨年の「マルハナバチ調査隊2015」の参加者数243名の2倍以上となりました。

今回対象とした7つのグループの動植物の報告データは**2,197件**でした。報告には781点の写真も合わせて送っていただいたので、必要に応じてより正確な記録も整理できました。

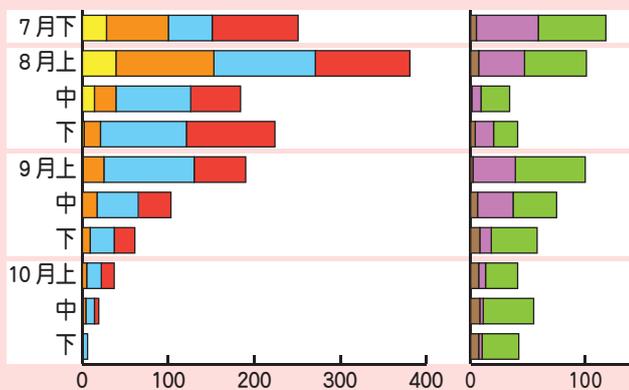
調査した区画数は**188地区**(1キロ四方の単位)。市街地の公園を中心として、多くの報告をいただき、札幌全体の約16%と、市街地周辺の半分近くを調べることができました。



今回の調査の概要

- 調査期間 2016年7月23日～10月30日(100日間)
- 対象範囲 札幌市内(1キロメッシュ数1,192)
- 参加者数 84チーム、601名
小学生参加65チーム(77%)
※一般246名、中学生7名、小学生264名、幼児84名
- 調査報告数 総データ数2,197件(対象種1,826件)
※主催者データを除くと、データ数1,975件、対象種1,555件
- 調査地区数(1キロ四方単位) 188地区(市内の16%)

調査時期別の報告データ数

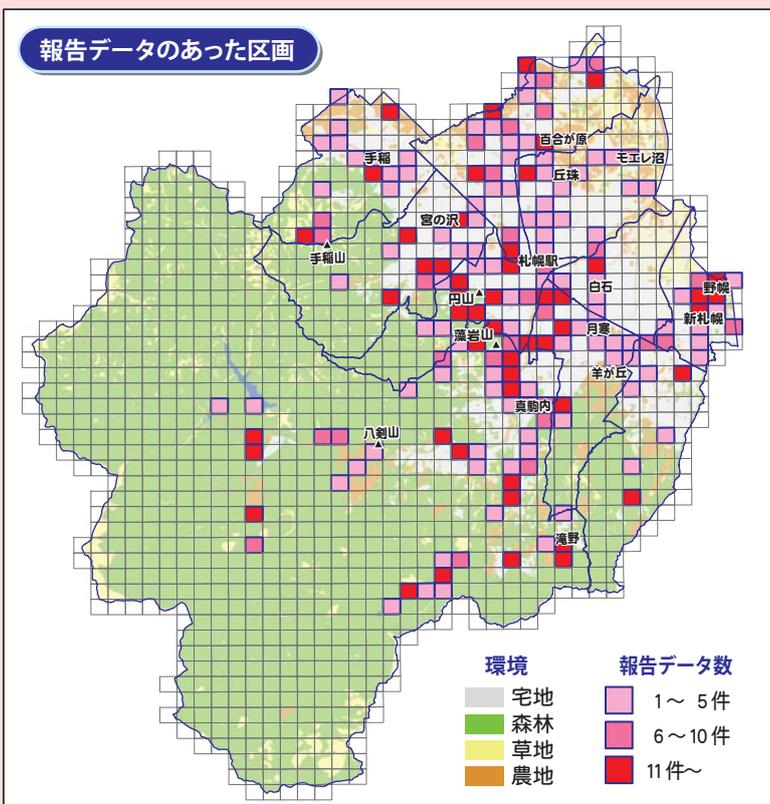


- クワガタのなかま **85件**
- マルハナバチのなかま **290件**
- トンボのなかま **569件**
- チョウのなかま **515件**
- キツツキのなかま **56件**
- 夏や秋にさく花 **208件**
- 木の実のなかま **409件**

もっとも報告が多かったのはトンボのなかまで、次いでチョウ・木の実が多く報告されました。一方キツツキやクワガタについての報告はやや少ない結果となりました。

報告の時期は、クワガタやマルハナバチは7月下旬から8月上旬に集中しました。トンボやチョウ、花は9月上旬までは多くの報告がありましたが、その後少なくなっています。木の実とキツツキは期間中コンスタントに報告がありました。

報告データのあった区画



★ グループごとの結果紹介

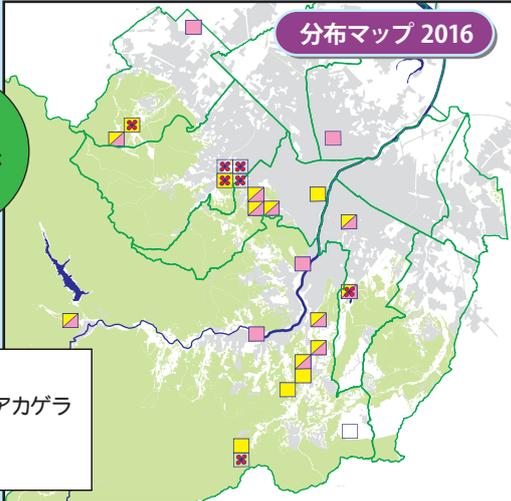
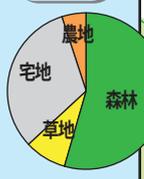
※地区数が多い順に、報告された種を並べました。
 ※種名の後の数字は、地区数、報告数（写真のある報告数）。

キツツキのなかま

- コゲラ 16地区 21(14)
- アカゲラ 14地区 24(15)
- クマゲラ 8地区 9(7)



環境



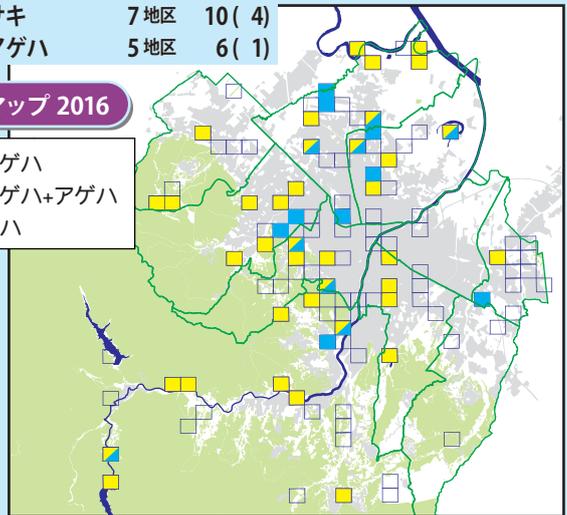
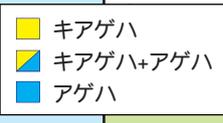
キツツキのなかまは、山地の森林や森のある公園で多く確認されました。報告数はアカゲラが一番多いですが、地区数ではコゲラが上回りました。コゲラとアカゲラの報告地区がよく重なっているのは、調査した人が限られていたためと考えられます。天然記念物のクマゲラも8地区で報告がありました。

チョウのなかま

- モンキチョウ 86地区 195(54)
- キアゲハ 39地区 58(12)
- ベニシジミ 32地区 43(20)
- クジャクチョウ 25地区 31(18)
- ミヤマカラスアゲハ 18地区 19(7)
- アゲハ (ナミアゲハ) 17地区 25(5)
- コムラサキ 7地区 10(4)
- カラスアゲハ 5地区 6(1)



分布マップ 2016



キアゲハは、平野部から山地まで広く分布する一方、(ナミ)アゲハは平野部を中心に分布していました。キアゲハの食草はセリ科の植物で、アゲハの食草はミカン科の植物です。アゲハは市街地に植えられたミカン科の木を利用することで、市街地に多く生息していると考えられます。

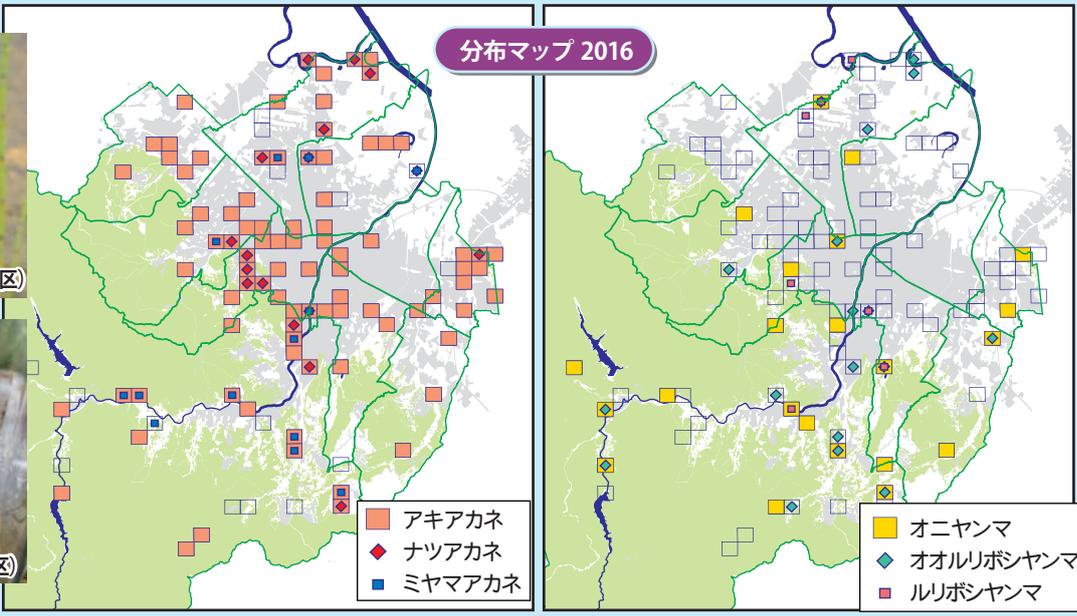
トンボのなかま

- アキアカネ 89地区 219(52)
- ノシメトンボ 54地区 99(29)
- オニヤンマ 22地区 45(16)
- シオカラトンボ 21地区 31(16)
- オオルリボシヤンマ 18地区 37(12)
- ナツアカネ 18地区 23(8)
- ミヤマアカネ 14地区 17(6)
- ルリボシヤンマ 7地区 8(2)

トンボのなかまでもっとも確認地区数が多かったのはアキアカネで、平野部から山地まで広く分布していました。同じアカトンボのなかまであるナツアカネとミヤマアカネは、本来平地から丘陵地にかけて生息しますが、今回の調査結果から、ナツアカネは平野部に、ミヤマアカネはより山地に近い場所を中心に分布していることがわかりました。

ヤンマ類ではオニヤンマがもっとも多く、山間部の溪流にやや多くかたよって分布していました。次に多いオオルリボシヤンマは、オニヤンマよりも平地に多い傾向がありました。

なお、トンボ類は写真の正解率が87%とやや低かったため、同定の間違いもある程度含まれていると思われます。



※種名が赤いものは外来種を示す。
 ※分布図のメッシュマーク(□)はそのグループの報告があった箇所を示す。
 ※環境のグラフは、確認メッシュの植生区分を合計したものを示す。



クワガタのなかま

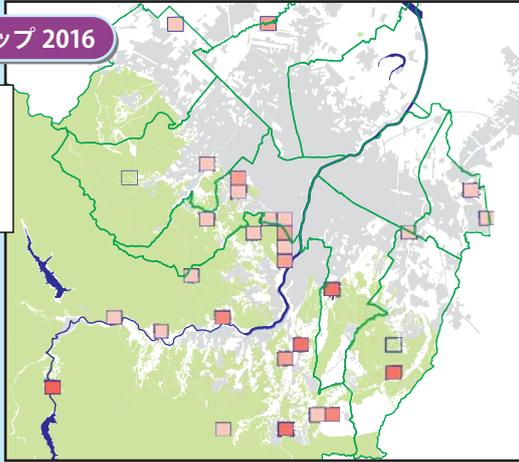
- ・ミヤマクワガタ 17地区 27(13)
- ・スジクワガタ 13地区 20(12)
- ・アカアシクワガタ 12地区 14(6)
- ・コクワガタ 8地区 12(5)
- ・ノコギリクワガタ 4地区 5(2)
- ・カブトムシ 5地区 5(2)

ノコギリクワガタ



ピコロチーム (南区)

分布マップ 2016



クワガタのなかまの5種の確認状況をマップにまとめました。主に山地や河畔沿いに分布しており、特に山地の方で確認された種数が多くなっています。今回の調査を開始した7月下旬には、クワガタを見つけやすい時期のピークが過ぎていたため、あまり多く確認されなかったことが考えられます。なお、国内外来種であるカブトムシは5地区で報告がありました。



マルハナバチのなかま

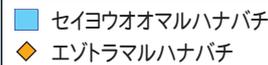
- ・外来タイプ 51地区 109(64)
- ・三色タイプ 40地区 95(72)
- ・黄色タイプ 24地区 34(22)
- ・灰色タイプ 21地区 41(28)
- ・赤色タイプ 3地区 3(2)

エゾトラマルハナバチ

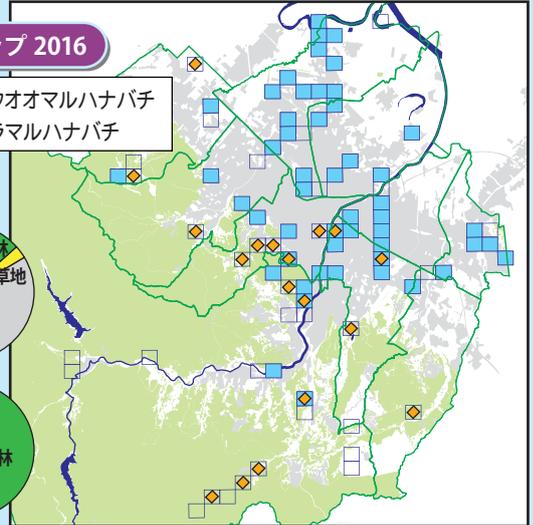
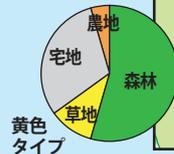
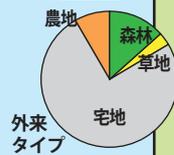


あまちゃん (白石区)

分布マップ 2016



環境



マルハナバチの情報は全体で87地区と、昨年の「マルハナバチ調査隊2015」の130地区より少ないですが、分布の傾向に変化はありませんでした。外来タイプのセイヨウオオマルハナバチがもっとも多く、市街地で多く見られています。逆に黄色タイプの在来のマルハナバチは山地で多く見られました。



夏や秋に咲く花

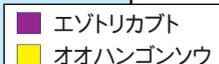
- ・オオハンゴンソウ 34地区 43(21)
- ・キツリフネ 23地区 30(8)
- ・アキノキリンソウ 21地区 30(16)
- ・エゾトリカブト 16地区 23(10)
- ・クサフジ 13地区 15(10)
- ・ツリガネニンジン 6地区 6(2)

オオハンゴンソウ

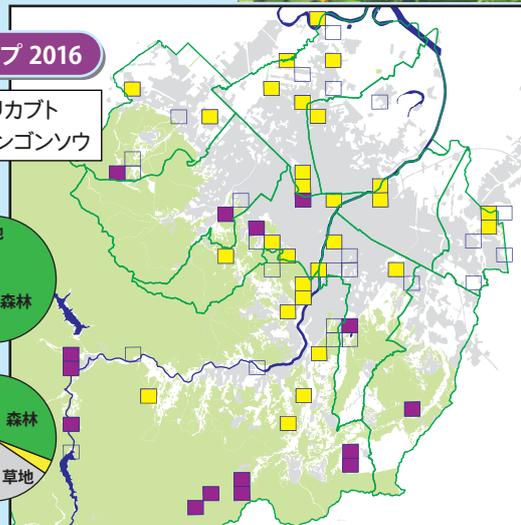


認定子ども園英伸幼稚園 (北区)

分布マップ 2016



環境



今回は、夏から秋にかけてよく見られる6種の花を調査対象としました。そのうち2種の分布をマップにしました。外来種オオハンゴンソウは市街地を中心に広く分布するのに対して、エゾトリカブトは山地の森林に多く、公園などではほとんど確認されませんでした。



木の実のなかま

- ・オニグルミ 54地区 73(36)
- ・ミズナラ 48地区 80(36)
- ・ツリバナ 43地区 54(30)
- ・ヤマグワ 30地区 38(17)
- ・ホオノキ 25地区 35(20)
- ・カツラ 20地区 23(11)
- ・キタコブシ 20地区 22(6)
- ・コナラ 13地区 14(4)
- ・ツノハシバミ 8地区 9(6)
- ・カシワ 6地区 8(4)

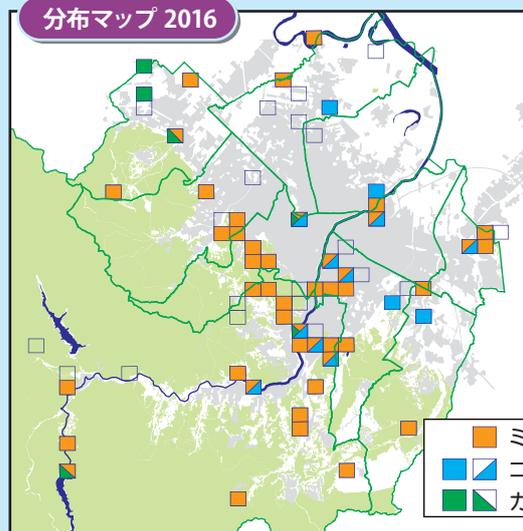
カシワ



チーム塩谷 (小樽)

10種の木の実について報告を整理しました。なお、植えられたものは調査の対象外ですが、報告の中には混ざっている可能性があります。

分布マップ 2016



マップには、どんぐり3種の分布を示しました。ミズナラが山地や市内の公園で広く見られるのに対し、コナラは東部にかたよっている特徴がよく分かります。

★ 参加チームのランキング発表!

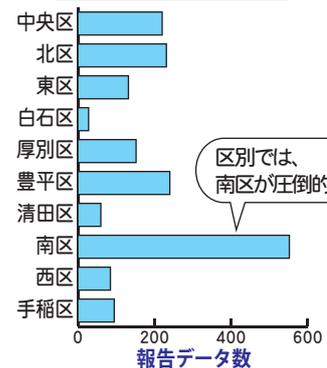
報告数ランキング

チーム名	報告データ数	報告メッシュ数	参加人数
1 なおすず	141	14	2
2 そっくりFamily	135	34	4
3 チーム MocoMoco	89	13	3
4 栄生きもの Go!	88	4	130
5 あまちゃん	82	10	1
6 旭山森と人の会	61	5	40
7 円山動物園の森ボランティア	58	6	45
8 SIRO	56	8	4
9 チームいるか	38	7	5
10 チームW	34	7	4

チーム名	報告データ数	報告メッシュ数	参加人数
10 ノナック	34	5	2
12 チーム翔	31	8	4
12 チーム武井	31	6	4
12 西岡公園植物の会	31	1	10
15 塩沢チーム	30	4	1
16 もふもふ団	28	12	4
17 石田	27	4	4
18 チーム白土家	24	8	3
19 チームにこちゃんず	23	3	4
19 ヒロムシ	23	3	2

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。たくさんのご報告ありがとうございました。

区ごとの報告データ数



★ 写真コンテストを行いました!

参加者の皆さんには調査報告とともに、きれいな写真、面白い写真、生き物の姿を分かりやすくとらえた写真などたくさんの写真をお送りいただきました。全781点の中から事務局選考に



より選ばれた10点の写真について、1~2月のイベントとウェブサイトで人気投票を行いベスト3を決めました!! (総投票数: 856票) たくさんの投票、ありがとうございました。

1位: コムラサキ (認定子ども園英伸幼稚園) 2位: エゾオオマルハナバチ (あかひな) 3位: ノコギリクワガタ (調査員 K)



ルリボシヤンマ (旭山森と人の会)



オオルリボシヤンマ (チーム翔)



ノシメトンボ (がんばる隊)



コオニヤンマ (そっくりFamily)



ミヤマカラスアゲハ (チーム武井)



ベニシジミ産卵 (こさかファミリー)



ツリバナ (SIRO)

写真が多かったのは以下の種。マルハナバチやトンボは種の判定用も兼ねて多く寄せられました。

- 1位 アキアカネ 50点
- 2位 セイヨウオオマルハナバチ 40点
- 3位 エゾオオマルハナバチ 34点
- 4位 モンキチョウ 28点
- 5位 ノシメトンボ 25点

★ おわりに

「さっぽろ生き物さがし2016」では、100日間にわたって7つのグループの動植物について多くの方に調査していただきました。このデータですぐに何が言えるわけではないですが、札幌の自然環境、生物多様性を考える上で重要なスタートのひとつとなる情報が得られたこととなります。調査に参加していただいた方々に感謝いたします。このような市民の手による調査を継続して積み重ねていくことで、情報が有効なものになっていきます。今後も札幌市では、市民の皆さんにご協力いただきながら生き物調査を行っていく予定です。

この調査をきっかけに、市内の生き物たちの分布の変化、くらしの変化に注目していただけたら幸いです。

また参加してほしいっコー!



○さっぽろ生き物さがし2016事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル
電話 011 (892) 5306 ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

○主催 札幌市環境局環境管理担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
電話 011 (211) 2879 ファクス 011 (218) 5108

✉電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp フェイスブック <https://www.facebook.com/sapporo.ikimono/>

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/28chosa.html>

札幌市の生物多様性
PRキャラクター
「カッコー先生」

発行: 2017年3月